

資料 1令和 5 年（2023 年）10 月 3 日
第11回川越市介護保険事業計画等審議会

会 議 要 旨（案）

会 議 の 名 称	第 1 0 回川越市介護保険事業計画等審議会	
開 催 日 時	令和 5 年 8 月 2 9 日（火） 1 4 時 0 0 分 開 会 ・ 1 6 時 0 0 分 閉 会	
開 催 場 所	ウエスタ川越 1 階多目的ホール B・C	
議 長	齊藤正身会長	
出 席 委 員	小林範子委員、中野委員、牛窪委員、池浜委員、田畑委員、 高橋委員、宮山委員、川越委員、菊池委員、平島委員、荻野委員、 佐藤委員、入江委員、長峰委員、村田委員、米原委員、 小林松十郎委員、横田委員、中原委員、粕谷委員（20 名）	
欠 席 委 員	藤崎委員	
事 務 局 職 員	福祉部 高齢者いきがい課 介護保険課 健康づくり支援課 地域包括ケア推進課	新井部長 犬竹参事、内門副課長、 新井課長、内田副課長、円城主幹 五木田副主幹、秋庭副主幹、高橋主任 後藤課長、有馬主幹 富田課長、福島副課長、内藤副主幹 関根主査、飯田主任、石川主事
会 議 次 第	1 開会 2 あいさつ 3 報告 （1）第 9 回川越市介護保険事業計画等審議会について 4 議事 （1）第 9 期計画骨子（案）について （2）第 9 期の介護サービス基盤整備について（施設系サービス） 5 その他 6 閉会	

配 布 資 料	1	次第	
	2	資料 1	第 9 回川越市介護保険事業計画等審議会 会議要旨（案）
	3	資料 2 - 1	第 9 期計画の骨子（案）について
	4	資料 2 - 2	川越市高齢者保健福祉計画・第 9 期川越市介護保 険事業計画 骨子案
	5	資料 2 - 3	川越市高齢者保健福祉計画・第 9 期川越市介護保 険事業計画 骨子案（第 8 期計画との対比）
	6	資料 2 - 4	重点事業の例
	7	資料 3	第 9 期の介護サービス基盤整備について （施設サービス等）
	8	参考資料 1	川越市高齢者保健福祉計画・第 9 期川越市介護保 険事業計画 骨子案
	9	参考資料 2	厚生労働省 厚生労働省社会保障審議会介護保 険部会資料（抜粋）
	10	チラシ	「第 1 1 回医療介護フォーラム」「自分らしく」

議 事 の 経 過

	<p>1 開会</p>
	<p>2 あいさつ 会長あいさつ</p>
	<p>3 報告 (1) 第9回川越市介護保険事業計画等審議会について 【資料1】を基に事務局より報告。</p>
事務局	
会長	資料1について、事務局からの説明に対して質問はあるか。
委員	(質問なし)
	<p>4 議事 (1) 第9期計画骨子(案)について 【資料2-1~2-4】を基に事務局より説明。</p>
事務局	
会長	事務局からの説明に対し質問はあるか。
委員	<p>「高齢者像の変化に応じた高齢者施策を行う必要があります。」(資料2-1 P.12)は、その通りだ。 第9期計画の基本方針(P.19)、「住み慣れた地域で見守りながら」とあるが、団塊の世代でしっかりやらないといけないと感じている。この基本方針でいい。 骨子案の施策の方向性(資料2-2)、柱I「生涯にわたる健康づくりと高齢者の社会参加の促進」の施策の方向性3、「高齢者が社会参加の機会を得て、生きがいを持っていきいきと生活できている」という文章があるが、受け身ではなく能動的な表現で「高齢者が積極的に社会参加を行い」、に改めたらどうか。</p>
会長	意見のとおり。
委員	<p>資料2-1について、前回資料から変更(P.2)(1)「社会参加の機会に恵まれ、一人ひとりが役割を持ち、活躍できる」、(3)、(4)も「できる」という記載となっている。 「できる」という状態はまだ実施できてないという感覚だが、「できている」としてはどうか。 資料2-2で同じく「できる」または、「できている」と表現が混在してい</p>

	<p>る。もし実施している方法を確認しているのであれば、「できている」とした方がいいと考えた。</p> <p>「誰もが気軽に集まれる場がある」（資料２－１ P. ２）について、従来から場は色々あると思うが、これが十分利用されていないという問題ではあるので、「集まる場があり、利用されている」というところを目指してはどうか。</p> <p>「本市の高齢者が可能な限り住み慣れた地域で」（P. １３）について、「可能な限り」の記載が否定的な感触を受けたので、この「可能な限り」を省くことを検討したい。</p>
事務局	<p>方向性の記載は精査していく。「（２）誰もが気軽に集まれる場」（資料２－１ P. ２）については、地域資源、団体、場所等、既存のものを活かしながら整理していきたい。</p> <p>「可能な限り」（P. １３）の記載は、「高齢者が住み慣れた地域で」という言葉で代えさせてもらいたい。</p>
会長	<p>事務局意見について、委員からの意見はあるか。</p>
委員	<p>補足させてもらおうと、厚生労働省の地域包括ケアシステムの定義に、可能な限り住み慣れた地域で、とある。そのため、「可能な限り」という言葉も入っていくと思う。</p>
委員	<p>「社会とつながることを支援する」（P. ４）で、「生活支援コーディネーターや地域包括支援センター等が地域で活動する中で把握した地域資源」という言葉は重要だと思う。</p> <p>「気軽に集まれる」（P. ６）と書いてあるのだが、市施設などではなかなか気楽に集まれないため、地域資源を把握したつながりが支援につながるのではないか。</p>
会長	<p>具体的なことができるように事務局が提案している。今回の会議中に全て出してくれという話ではなくて、こういうことも大事ではないか、こういうことだったらこういうアイデアもあるのではないかと加えていけると、厚みが出てくるかと思う。</p>
委員	<p>今回の資料は、前回出た色々な案が組み込まれている点と、第９期に向けての施策の柱も、災害に関してわかりやすくなっている。</p> <p>施策の柱の項目の題名も、第８期に比べ、より地域に溶け込み、市民がわかりやすい、本当につながりを意識した表現になっている。</p>
会長	<p>文言の最終修正は、まだこの後もできるかと思う。「～～できる」で済ませ</p>

	<p>るのか。人によって捉え方が違うので、あえて、ここは「できる」にしたのではないかと思う。</p> <p>整理を再度行いその上で、細かい表現についてまたご意見いただきたい。</p>
委員	<p>「医療・介護の専門職が関与する」（資料2-1 P.8）は、今回の特徴と考えているのだが、具体的なことをどのように考えているのか。</p> <p>また、第9期計画の施策の柱（P.21）の第8期から第9期での変更点について、第8期の柱Ⅳ、低所得者に対する利用負担額の軽減、第9期では柱Ⅴに移動すると説明があったが、持続可能な介護保険制度の運営ということになると、制度を維持するため負担軽減を見直す趣旨となると考えられる。</p>
会長	<p>専門職の関与については、事務局からの一例で、具体的な内容について委員から意見をいただきたい。ケアマネジャーだけの問題ではなく、在宅医療の充実、医療と介護の連携、といった提案が入ってくると内容が充実する。</p>
事務局	<p>低所得者の方でも、介護保険サービスを使うことができるという、介護保険制度の根幹に関連するので、持続可能な介護保険制度の運営へ見直した。</p>
委員	<p>介護保険制度の持続について、制度を運営する側の視点に立つのではなく、必要な人に必要なサービスがきちんと行き渡る状況を整えていくというのが、制度の基本だという内容を打ち出していくのが良い。必要な人にサービスが行き渡る状況をいかに作るかが重要である。</p>
会長	<p>「制度」という言葉ではなく、「サービス」だと偏ってしまうだろうか。</p>
委員	<p>制度の持続性というと、財源について考える人が多いが、困っている人へ適正に支援が行き渡る状況が整えられたら、意味のある仕組みだと思う。</p> <p>必要な人に必要な支援が行き渡る状況を整えていく、と柔らかな言葉にすると、制度の持続可能性が何を目指しているか明確になると思う。</p>
会長	<p>持続可能な介護保険制度の運営という文言について見直ししていきたいと考えるが、意見はあるか。</p>
委員	<p>前回、共同連帯の考え方が出ていたと思う。負担できる人にはしていただくことをどう考えるかということの一つだと思う。共同連帯という考え方から、低所得者の方には、負担を軽減できるような仕組みということで解釈できるのではないかと思う。</p>
会長	<p>参考にさせてもらいたい。</p>

委員	<p>「高齢者が安心して暮らせる環境づくり」とする柱Ⅳに含めるのはどうか。</p>
会長	<p>そうすると、施策の方向性も少し見直していかなくてはいけなくなる。いろんな意見が出ると良い。</p>
副会長	<p>その後のイメージが大事。全員同じようにイメージした上で、検討してみるのがいいと思う。</p>
委員	<p>つながりを作るために、実は集まる場は既にあるのだが、場があることと、場へ社会参加をすることは、いきなりはつながらない。</p> <p>場は、様々な機能を持つ。例えば災害や感染症が関係する、安全・安心する場所という話や、場に参加する人がお互いに楽しむ、お互いにつながるとか、同じ趣味の人が集まる場もある。</p> <p>それ以外に、愚痴、悩み事を語る場もある。人が集まり、話をしていると困りごとが出て、それを拾い、困っていることの解決にうまくつないでいく。そのようなコーディネート機能が重要になってくる。場の用意と、社会参加がうまくつながる機能がないと、パーツが機能しないのではないか。どこかでこの「つなぐ役割」の内容を記載するべきと思う。</p> <p>認知症の人、家族の人が集まったとしても、お互い悩みや、困りごとを語る。それを誰かが解決につなぐ。それは専門職が解決する部分もあれば、他の人が話を聞いてあげるという意味での解決もある。例えばチームオレンジとリンクさせる。場を作ってお互いの話を、愚痴を出している話のみで終わらないようにする。</p> <p>コーディネート機能があると、つながりが機能していく。その内容を意識した記載がされると良い。</p>
委員	<p>団塊の世代は、元気な人が多いので、自ら社会参加することもできるが、市でも受け皿を作っていただくと、社会参加の機会が多くなる。</p>
会長	<p>会議の場で、受け皿を作りやすいような環境について考えるのも大事だ。</p> <p>カナダのウエストバンクーバーでは、シニアアクティビティセンターがある。行政が用意した場所で、運営は全員ボランティアで、高齢者が多い。集う、勉強する、体を動かせる場があり、運営する講師は市民、かつシニアの人が多い。行政が場を提供し、市民が盛り上げている。それが理想の一例だと思う。</p> <p>そこでよく出た言葉で、自宅以外に、「居場所、行く場所、座る場所」がある。そういうまちに、川越になると良い。</p>

委員	別のイメージとしては、例えば高齢者で一人暮らしをしている人、家を持っているが、一人で大きな家に住んでいるなど、地域に行けばいろんなケースがあると思うが、ちょっとしたことで集まれるような場所を把握する、つなげてくれる人がいると良い。
委員	<p>5つの柱にするか、6つの柱にするか、川越らしきを出す一つとして、感染症と災害に対する対応が議論だったと思う。基本指針に、「健幸」という文字そのものが、安心とか安全とかを表した言葉だということはあったようだが、安心してということを強調して、その中に、うまく5つの柱、施策の方向性に感染症と災害の内容がまとめられたと思う。</p> <p>文言だが、「見守りながら、支え合いながら、」というのは、「見守り、支え合いながら、」の方がわかりやすい。表現の意図を確認したい。</p> <p>地域資源について、団体が取り組む場所「等」ということで、色々含まれると解釈できる。これまでの議論で、人を大切にしているということが出ているので、団体の前に「人」を載せても良いと思った。</p> <p>「法的位置付け」（資料2-1 P.15）で、現在は、「介護保険事業計画と老人福祉計画」は一体的に策定となっているので、正確に記述されると良い。</p>
会長	「見守りながら、支えあいながら、」について意見はあるか。
委員	団塊の世代に頑張ってもらうとことで、「見守りながら、支えながら、」2つのセンテンスにした方が良い。
事務局	事務局で検討した際にも、「見守り・支え合う」という固い表現から、「見守りながら、支え合いながら、」というような、川越らしきを考慮した。
会長	喋り言葉で言うと、「見守りながら、支え合いながら、」という表現が優しく、説得力があると考えられる。
委員	意味があるのならば、変更は絶対ではない。
委員	体系図（資料2-2）、基本方針の、「健幸」の意味を確認したい。
会長	「健幸」については、審議会でも議論し、以前から使っている。
副会長	健康と幸福をつないだ「健幸」という造語は、多くの市町村で普及している言葉になりつつある。身体・心のことだけでなく、暮らしぶりも素敵にというのが、ここに込められている。

<p>会長</p>	<p>「健幸」という言葉を使った意味も、計画書へ記載する。※印で入れておくのが良い。</p> <p>委員がご了解ならば、まとめていきたい。</p> <p>ぜひ、この場ではなくても、事務局からの提案以外に、意見があれば事務局の方に伝えてもらえるとありがたい。</p> <p>最近、私が色々調べている中で興味深いデータがあったのでこの場でお伝えする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会参加している男性は、うつ病の発生リスクが1/7。 ・地域で役割のある高齢者は死亡率が12パーセント下がる。 ・地域活動参加をしていると、高次生活機能が上がる。 ・ボランティア参加率が高い市町村はスポーツ参加やサポート提供も盛んである。 ・趣味活動の参加割合が高いと、うつ傾向が下がる。 ・スポーツ組織参加率が高いと転倒率が下がる。 ・スポーツ組織参加率が高いと、要介護認定率も下がる。 ・地域組織参加率が高いと、認知症のリスク者の割合が減る。 <p>これらのデータは、ほとんど、2万人、3万人、10万人を対象とした調査データである。このような内容が、ホームページに出てきているので、使用できるデータがあれば、計画書の中にも、散りばめていったら良いというのはアイデアの一つだ。紹介することで説得力が違ってくる。</p> <p>さらにスポーツ活動に関して、グループに参加して運動している人と、一人で運動している人とを比較すると、運動はしていないが、グループには参加しているという人と、一人で運動している人では、一人で運動している人の方が要介護になりやすい。運動することより、集まる場に人が行くということが大事だという意味のデータである。</p> <p>これは名古屋のデータで、1万3千人ぐらいのデータだったと思うが、川越市の状況というのも、データが拾っていけるようになると、さらに説得力が出てくると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>この話は、全国的なデータなので、妥当性があると思う。紹介していき、今回、つながりづくりというところに力点を置いたというところがいいと思う。</p> <p>その後、3年後や6年後に振り返るときに、結果を追える形を作っておくと良い。</p> <p>さらに今回の計画書では、審議会での議論で、なぜ「健幸」という言葉を使ったのか、なぜつながりを大事に思ったか、そのような思いが冒頭にあると良い。</p>

会長	計画書を読む人がわかりやすい内容が良い。
委員	<p>菜の花の会（資料２－１ P. 6）について、審議会で早速資料にしてもらい、ありがたい。自分自身、色々と社会とのつながりを持っているということが生きがいで、元気にこうして活動できている。</p> <p>見守りということで、一人暮らしの方、日中は一人である。そういう方がまだまだ地域にいるので、菜の花の会をやっていることを声掛けしている。</p>
会長	ロコミで広げていこうということ。他にいかがだろう。大体この形でまとめていくことでいいか。
委員	<p>先ほどの、地域資源に「人」を入れることを議論いただきたい。</p> <p>地域資源は、団体・取組・場所等、とあり、「等」の中かもしれないが、議論の中で、川越市は「人」を大切にしているという思いがすごく伝わってきている。いきなり団体・取組ではなく、「人」の追記を提案させてもらった。</p>
会長	「人」を記載していきたい。他にはあるか。
委員	（資料２－１ P. 8）想定している取組で、自立支援のための取組は提起されている。もう一点考慮してほしいことが、介護におけるケアマネジメントをしていく上で、例えば、今よく言われているセルフマネジメントの視点とか、それに沿って自律支援を書き加えていくことも大事かと思った。
会長	具体的な文章があれば伺いたい。
委員	本人がどう生きたいかという自律の支援を考慮したケアを行う、ケアマネジメントを推進する、といった表現を考えたところだ。
会長	事務局と調整して、アイデアをいっぱい出してもらった方がいい。
事務局	<p>（２）第９期の介護サービス基盤整備について（施設系サービス） 【資料３】を基に事務局より説明。</p>
会長	事務局からの説明に対して質問はあるか。
委員	<p>施設サービスをめぐる現状（資料３ P. 7）について、埼玉県による特別養護老人ホーム（以下、特養）入所希望調査で川越市民の入所希望者が年々減少していると記載がある。</p> <p>一方、参考資料１の高齢者が安心して暮らせる環境の整備（P. 4）のうち</p>

	<p>施策の現状で、施設入所を検討している人は増加の傾向にあると書かれている。特養以外の施設が検討されているということなのかと判断したが、確認したい。</p> <p>事務局案で良いと思っているが、その場合、特養の入居者と他の施設との比較において、費用負担、介護サービスに差は生じるのか、生じる点があれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>特養は、医師の配置があつて、毎日ではないが、健康管理をする。医療的なケアがより必要な方は、特養が向いていると考えられる。ただ、今特養に入所している全ての方が医療のケアを必要としているわけではないと考えていて、特定施設でも問題がない方もいるのではないかと考えている。</p>
委員	<p>費用面についてはどうか。</p>
事務局	<p>特養は、比較的、低額で入所できると、一般的には言えると思う。ただ特定施設も、例えば生活保護の方のための部屋というのを、数部屋用意している事業所は多い。また、今年度行った調査で、住宅型有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅（以下、サ高住）の月々の住居の費用の調査では、半分ぐらいの施設で、15万を割るプランというのを用意している。</p> <p>特定施設も、有料老人ホームなので同じような費用になるので、特養に近い費用で入れるようにはなってきている。</p>
委員	<p>設備の記載（P.5）で、特定施設では、要介護者の方が使うのはできないのか。</p> <p>特養の増床、建物を建てるのではなく、増床ということは、介護職の人材不足の面からも、これも一つの方法かと思うが、基準よりも入っている方が増えて、介護職、職員が増員されて、サービスの質が落ちないのかどうかについてはどのように考えるか。</p>
事務局	<p>基準の部分の書きぶりは、厚生労働省令を基にしている。事業者側も当然必要であるということで最近の特定施設は機械浴を整備している。</p> <p>増床についての人員確保については、川越市内の事業所に対して、増床の希望があるかという調査をしている。</p> <p>そこで手を挙げている事業者からは、このぐらいの増床であれば、人材は確保できるという話は聞いているので、そこは心配ないと考えている。</p>
会長	<p>機械浴の話だが、自身の施設では、できるだけ機械ではなく、一般浴槽に</p>

	<p>介護度の重い方も入れるようにしている。それはその人の尊厳を考えると、果たして機械浴で、オートメーションのように入っていくのが本当にいいのか。できるだけ一般浴槽で、重い方でも2人で対応しながら入るということをしているところもある。機械の浴槽があるから人がどうのという判断はちょっと違ってくると思うので、市もそこをポイントにしないほしい。サービスの内容で考えてほしい。他にいかがか。</p>
委員	<p>特養への入居希望者が減少している理由はあるのか。(P.7 P.15)</p>
事務局	<p>各自治体とも、待機者が昔はもっと多かったので、ほぼ毎期特養を整備してきている。川越市では第8期は特養を整備しなかったが、第7期は100床を整備した。</p> <p>ここ数年で、川越市の周りで844床増えている(P.8)。埼玉県全体だともっと増えているので、高齢者人口の増加を上回るペースで、施設の整備が進んでいると解釈している。</p>
副会長	<p>例えば、サ高住の整備による、受け皿の多様性が進んでいるということがあるのではないか。いかがだろう。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり。</p>
会長	<p>あと先ほど説明があったが、認知症の方が入居を希望しているケースが多く、この7月1日にグループホーム(以下、GH)を1つ開所し、ほぼ満床となっている。あっという間にGHは埋まる。だから、ニーズとしてはやはり小規模で、アットホームな感じで親御さんを預けたい、あるいは、そこに入りたいという人が、実は多いのではと感じる。かつ、特養は一応申し込んでいるけども、GHが新設されると、そこに入ろうという考えもあるかもしれない。現在は様々なサービス体系があり、特養には、要介護3以上でないと入れないため、要介護度に関わらず、やはり生活に支障があるかどうか、あるいは、家族が看ることが大変だとことになると、入れるところを選択していく傾向があるかもしれない。</p>
委員	<p>特養は、新規の方は要介護3以上でないと入れない。逆に、認知症の方で、要支援2とか要介護1、2の方が大変だ。受け皿が実はGHなどになっている。やはりGHを少し手厚くしないといけないというのが、方向性ではある。</p>
会長	<p>GHが3ユニットを認められるようになったことも重要である。このような計画で行こうと立案してもらったが、このような形で進めていっていいだろうか。介護保険料に影響があるので、簡単に施設を増やせばいいという問</p>

事務局	<p>題ではない。調整をしながら決めていく必要がある。これを基本計画で考えていくということで進めていく。</p> <p>5 その他 【医療介護フォーラム 人生会議のチラシについて説明】</p>
事務局	<p>6 閉会 次回開催は、令和5年10月3日（火）、川越市医師会館を予定。</p>